



まずは予選の結果をご覧頂きたい。1位…小師賢作、3位…高橋邦明、4位…時田雅義。これが EAGLE RS Sport の実力。今年の2月、満を持して投入されたハイパフォーマンスタイヤ「EAGLE RS Sport」は、第1戦目にして早くもその驚異的なポテンシャルを披露する結果となった。



Rd.1 EBISU

08年もD1(全日本プロドリフト選手権)は福島県エビスサーキットで開幕を迎えた。昨シーズン後半から復調の兆しを見せていた高橋邦明。グッドイヤーが送り出したニュータイヤ EAGLE RS Sport とのマッチングとマシンの戦闘力アップにオフシーズンを費やして迎えた第1戦、早くもその結果を叩き出した。

【予選3位通過】

とにかくシャープ。本人の実力をないがしろにする気は毛頭ないが、タイヤと足回りのセッティングがもたらすマシンへの影響は絶大だと言わざるを得ない。派手なコースアウトからとなった予選1走目の走りさえ、不安を微塵も感じさせない余裕が見て取れる。案の定、2走目は文句なし。100点が出なかったことに不満を憶えるほどの走りで通過確定の99.90点。

【1回戦7位通過】

日曜日、ここからは昨シーズンのシード選手11台が加わり30台から上位16台が選ばれる。が、シード選手を蹴落とすことが容易でないことは明らかで、実質5つの席を争うようなもの。もしかすると、D1グランプリで最も困難な関所が1回戦なのかもしれない。事実、予選では1人も出せなかった100点が5人、しかもその全員がシード選手。そんな状況下、またしても魅せてくれたのが高橋邦明。1走目99.85、2走目99.95、3走目99.95。高次元での安定感を見せつけ、シード選手に食い下がる7番手でベスト16進出。

【久々の追走バトル】

07年の第4戦SUGO以来となる追走進出。対戦相手はS15を駆るベテラン岡村和義選手。高橋



先行スタートの1本目、久々の追走に緊張したのか纏まりのない走りで精彩を欠く。しかし幸いにもと言うべきか、金曜日の練習走行から好調を維持してきた岡村選手も、らしくない走り。審査委員長から「-5:-5」と、厳しいお言葉。続く2本目、今度は両者目の覚めるバトルで拮抗しサドンデス突入。好勝負に客席が沸く3本目、アクシデント発生。後追いの岡村選手がピット前のストレートで戻りそのまま1コーナーに激突。ドライバーの無事は確認されたがマシンは自走不能で、高橋がベスト8へ。

【自責点1】

ここまで意欲的に駒を進めてきた高橋。次は野村謙選手のER34。1本目、上位常連の野村選手からアドバンテージをもぎ取り、優勢で迎えた後追いスタートの2本目、最終コーナーからストレートを手堅く、そして審査員席前から2コーナー、3コーナーで野村選手の脇腹に食い付く。5:5以上。負けなし。少なくとも1本目のアドバンテージを覆される心配のない状況…で、シフトミス。それも4コーナーの先で。これは完全に高橋選手の自責点。慰めの言葉も見つからない。

【赤ゼッケン獲得】

喜びと悔しさを天秤に載せたなら、きっと悔しさの方が重たいのだと思う。たとえそうだとっても、赤ゼッケンを手に入れたことだけは素直に喜びたい。



Rd.1 EBISU SUPPORT DRIVER RESULT ()内は2008獲得総ポイント

高橋	6位	2P	(2P)
手塚	11位	7P	(7P)
時田	13位	4P	(4P)
小師	1回戦進出	-	(-)
匂坂	予選不通過	-	(-)
村山	予選不通過	-	(-)

EAGLE RS
Sport

冒頭でお伝えしたとおり、08年のD1開幕戦でメキメキと頭角を現したグッドイヤーサポートドライバー達。この結果の一因に、彼らは EAGLE RS Sport の戦闘力を挙げる。高橋選手の機敏な走り、小師選手の車速、時田選手の安定したハンドリング、そして手塚選手のハイレベルなパフォーマンス。グリップや剛性を高めることで、ドライバーの自由度や選択肢が格段に広がったように思える。今後セッティングが煮詰まると共に、我々は更なる躍進を目の当たりにすることだろう。



GOODYEAR Racing
ZERO CROWN
痛快デビュー



時田雅義 GRS180 クラウン **ベスト16進出**

エビスを埋め尽くした観衆の前に、いよいよ感満載で姿を現した白いゼロクラウン。ハンドルを握るのはバジン1号時田雅義。今シーズンから採用された『現行車種優遇制度』という新ルールに該当するゼロクラだが、「ちゃんと勝ち上がって、結果に繋がりたいです。僕にもプライドありますから。」と語る時田選手。その頼もしい言葉通り予選を4位で通過、初陣でベスト16進出を果たした。D1ではチューニング実績のない、まだまだこれから熟成させなければならないゼロクラで叩き出したこの結果に、ここは無条件で大きな拍手を送りたい。そしてガレージも大盛況。D1ファンのゼロクラに対する関心の高さが伺える。時田選手は、デビューランの最終調整とファンサービスに奔走していたが、どちらにも一切の手抜きなし。次戦FUJIIではより大勢のファンが詰めかけると思われるが、それも大きな励みになるだろう。D1では最大級の大きさ、チューニングデータもほとんど無い、まだまだこれから熟成させなければならないこのマシン、しかしデビュー戦でこのパフォーマンス！その秘められたポテンシャルは果てしなく未知数である。



手塚強 BNR32 スカイライン **ベスト16進出**

仲間たちの派手な活躍で手塚選手の戦績が地味に思えなくもないが、これは全くの勘違い。当然のように100点の走りを見せつけ、昨シーズンに引き続きシードドライバーもキープ。EAGLE RS Sport を得て、もはや疑う余地のないところだが、今期2勝を最低ラインに掲げ、虎視眈々。



小師賢作 AE86 トレノ **1回戦進出**

開幕戦を「予選1位通過」で華々しく飾った小師選手。EAGLE RS Sport のポテンシャルを観客席に見せつけた。…が、1回戦で無惨にも敗退してしまった。トラブルでもあったのかとガレージを訪ねると「走り方、変えてみたんす。そしたら…。」しかしまだ初戦、今後が楽しみであることに変わりはない。

2008グッドイヤー
D1エンジェル



2008グッドイヤーD1エンジェルの松谷裕美です。1年間、明るく楽しく頑張りますので応援して下さい。もちろん、グッドイヤーのドライバーも、私たちと一緒に応援して下さい。

さとみです。はじめてのD1で分からないこともたくさんありますが、応援して下さい。